

2020年12月6日 司祭 越山 哲也  
八戸聖ルカ教会

## 降臨節第2主日 説教

「逃れの道を見つけていますか～主の道を整えるために～」

〔旧約聖書〕 イザヤ書 40:1~10  
〔使徒書〕 ペトロの手紙Ⅱ 3:8~15,18  
〔福音書〕 マルコによる福音書 1:1~8



主の平和が皆さんと共にありますように。

「一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです。」

(ペトロの手紙Ⅱ 3:9)

「主の忍耐深さを救いと考えなさい。」(ペトロの手紙Ⅱ 3:14)

神さまは全能なお方です。皆さんは神様はどのようなお方であると思われますか。「神は愛なり」ですから愛のお方であると思われている方が多いのではないのでしょうか。私もそう思いますし、そう信じています。そして、同時に「忍耐深いお方」であると思います。そのことが上記のみ言葉からも知ることが出来ます。神様の忍耐深さは「我慢」ではありません。すべての人の悔い改めを待つ忍耐です。

いわば、愛の心の現れであるので神の忍耐深さは「神は愛なり」と同じ意味なのだと思います。

ホルマン・ハントの『世の光』という絵画をご覧になったことはありますか。イエス様がカンテラを片手に扉を叩いている有名な宗教画です。この絵にはある特徴があるのです。普通扉には両方に取っ手がついていると思うのですが、取っ手がついていないのです。

人の心の扉の外には取っ手がついておらず、自らが内側から開けないと扉は開かないのです。イエス様であれば人間の心を超えて扉を開けて入ってくることは出来るお方です。実際にあの復活後に失意のため家の扉に鍵をかけていた弟子たちの家に現れたこともあります。しかし、あの時の状況は弟子たちは絶望状態にあったのです。あのイエスの行為も愛の心の現れだと思います。

イエス様は忍耐深く待っておられるのです。

今日の福音書は、洗礼者ヨハネの呼びかけです。ヨハネは「主の道を整え、その道筋をまっすぐにせよ」(マルコ1:3)とされました。

主の道を整えるということは、自らがイエス様を迎え入れる備えをするということです。そうです。心の扉を自ら開くということではないでしょうか。

私たちは逆境に陥った時に「なぜ、神様は私を助けてくれないのか」「なぜ進むべき道を示してくださらないのか」などと言います。

しかし、神様からの応えはない・・・、それは神様は冷たい方なのではなく、忍耐のお方であり、私たちの主体性をどこまでも信頼してくださっている裏返しだと思ふのです。

どんな逆境でも試練の中にあっても、「よし、イエス様を信頼して歩もう」と心の扉を開けて歩もうとするならそこにきっと主の道は整えられていくのではないのでしょうか。

もう一つ聖書のみ言葉を紹介します。「あなたがたを襲った試練で、人間として耐えられないようなものはなかったはずです。神は真実な方です。あなたがたを耐えられないような試練に遭わせることはなさらず、試練と共にそれに耐えられるように逃れの道も備えてくださいます。」(Iコリント10:13)

「逃れの道」、これが私は主の道を整えるために私たちが知っておかなければならないと思います。心の扉を自らあけて生きていくために、試練を乗り越えていくための逃れの道は、人それぞれに準備されていると思うのです。人であったり、場所であったりするかもしれません。もしかすれば本、音楽、絵画にそれを見出す人もいるかもしれません。そしてそれを完全に見失っている人も多くいます。

そうすると人は絶望してしまいます。どうぞ私たちは自らの逃れの道をいつも主の道を整えながら確認してください。そして道が分からなくなったらお互いに思いやりの心をもってあなたにとっての「逃れの道」を見つけてあげましょう。あなたの隣人を愛することの一つの具体例だと思います。

そして、その逃れの道を歩むことは決して悪いことではなく、主の道を整えるために主が準備してくださった道なのです。そしてそこにもイエス様は共にいてくださるのです。